

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

## I. 調 査 要 領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和4年2月7日

(2) 調査対象期間 令和3年10月～12月期実績および令和4年1月～3月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社をインターネット (Google forms)、FAX により調査した。

### 3. 回収状況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	23社	76.6%
建 設 業	30社	23社	76.6%
卸 売 業	30社	24社	80.0%
小 売 業	35社	25社	71.4%
サービス業	25社	18社	72.0%
合 計	150社	113社	75.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス (景気動向指数) で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## Ⅱ．概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

令和3年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」27.7%、「悪化企業」45.5%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△17.8となっています。

前年同期(△32.5)との比較では14.7ポイントの改善傾向を示しました。また、前期調査<令和3年度第Ⅱ四半期>と比較してみると前回△27.5→今回△17.8と9.7ポイントの改善傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△13.0、建設業D・I値△30.4、卸売業D・I値0.0、小売業D・I値△44.0、サービス業D・I値5.9となっており、前年同期調査と比較すると、建設業が41.9ポイント、小売業が17.1ポイントの悪化が見られました。またサービス業で59.3ポイント、製造業で52.4ポイント、卸売業で37.1ポイントの大幅な改善傾向を示し、昨年9月末に緊急事態宣言が解除されたことから人流の増加により、コロナ禍の業況から改善の兆しが伺えました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.2%、「悪化企業」44.6%でD・I値△29.5と、前年同期見通し(△50.0)に比べ20.5ポイントの大幅な改善傾向を示していますが、まん延防止重点措置が適用され、新型コロナウイルス感染症の影響は未だ収束見通しが立たない状況です。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

#### 生産高

前年比で「増加企業」13.0%、「減少企業」43.5%、D・I値△30.4と前年同期(△46.2)に比べ15.8ポイントの改善となりました。

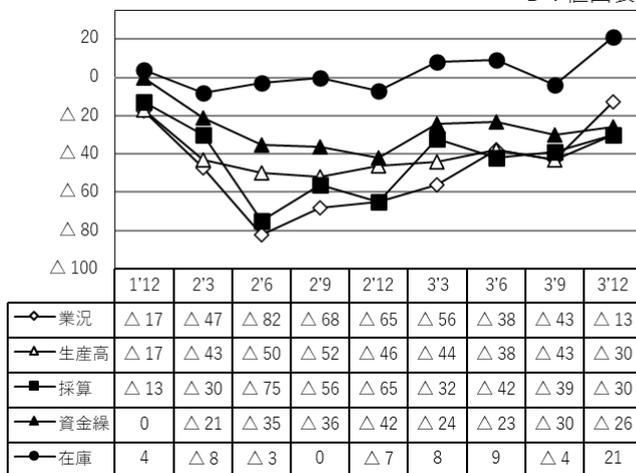
#### 採 算

前年比で「好転企業」17.4%、「悪化企業」47.8%、D・I値△30.4と前年同期(△65.4)に比べ35.0ポイントの大幅な改善となりました。

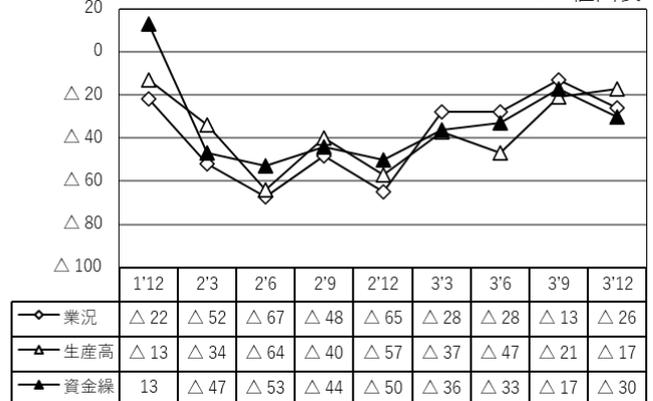
#### 来期見通し

業況D・I値△26.1(前年同期D・I値△65.4)、生産高D・I値△17.4(同△57.7)、資金繰りD・I値△30.4(同△50.0)と、前年同期に比べ全てのD・I値で大幅な改善傾向を示しました。

前年同期比 D・I 値図表



来期見通し D・I 値図表



## 2) 建設業

### 完成工事高

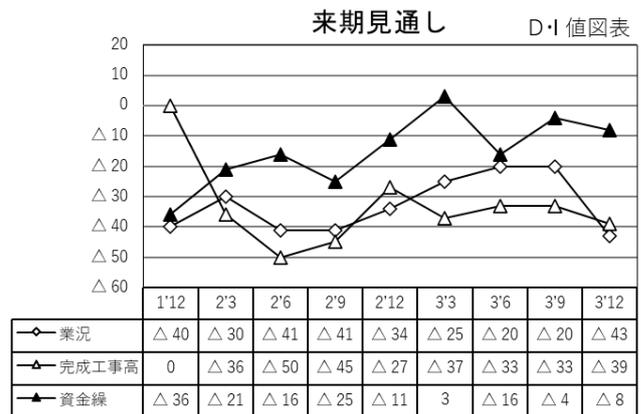
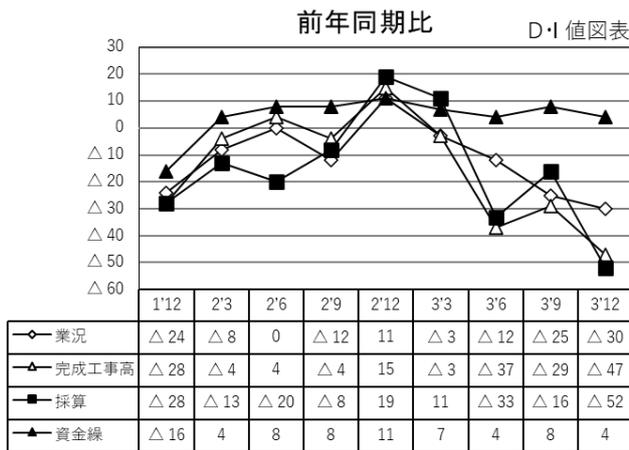
前年比で「増加企業」21.7%、「減少企業」69.6%、D・I値△47.8と、前年同期(15.4)に比べ63.2ポイントの大幅な悪化となりました。

### 採算

前年比で「好転企業」17.4%、「悪化企業」69.6%、D・I値△52.2と、前年同期(19.3)に比べて71.5ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

### 来期見通し

業況D・I値△43.5(前年同期D・I値△34.6)、完成工事高D・I値△39.1(同△27.0)、資金繰りD・I値△8.7(同△11.6)と前年同期と比べわずかに業況、売上は悪化、資金繰りは改善傾向の来期見通しです。



## 3) 卸売業

### 売上高

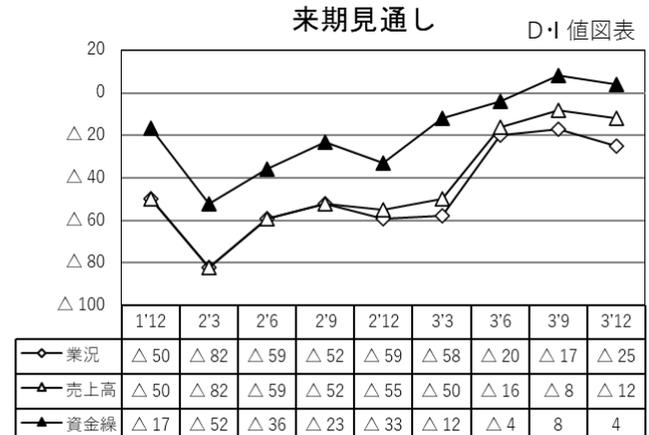
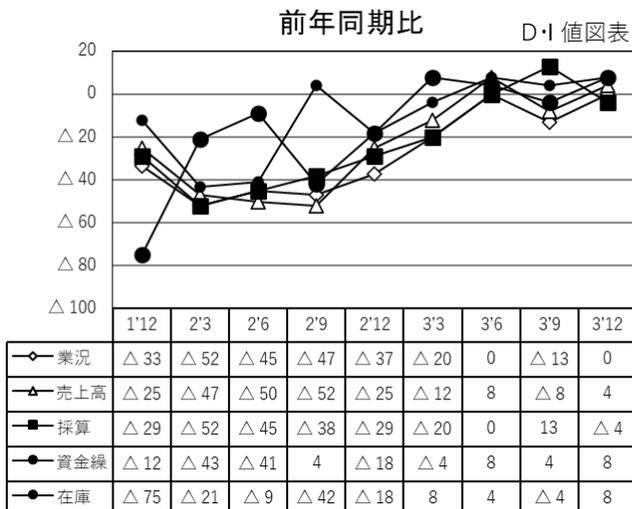
前年比で「増加企業」41.7%、「減少企業」37.5%、D・I値4.2と前年同期(△25.9)と比べ30.1ポイントとわずかに好転傾向を示しました。

### 採算

前年比で「好転企業」33.3%、「悪化企業」37.5%、D・I値△4.2と前年同期(△29.6)に比べ25.4ポイントの大幅な好転を示しました。

### 来期見通し

業況D・I値△25.0(前年同期D・I値△59.3)、売上高D・I値△12.5(同△55.6)、資金繰りD・I値4.2(同△33.3)と前年同期に比べすべてのD・I値で大幅な改善を示す結果となりました。



#### 4) 小売業

##### 売上高

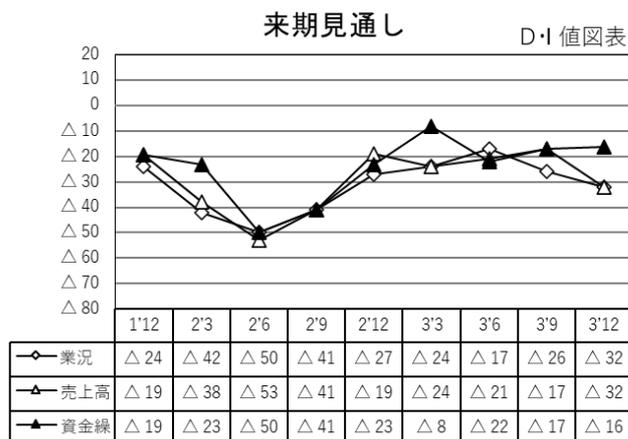
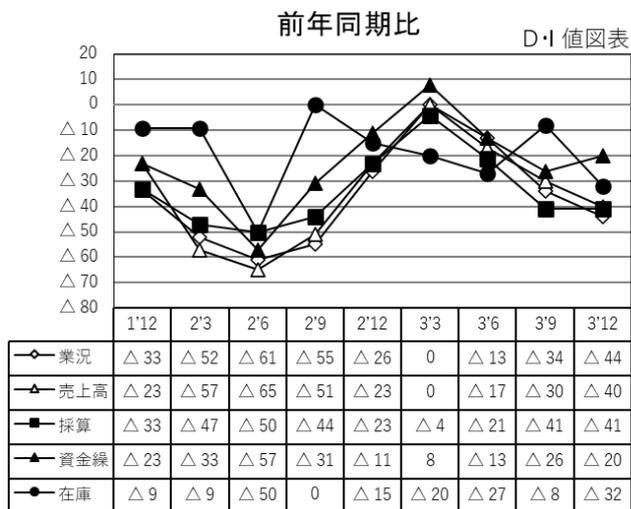
前年比で「増加企業」20.0%「減少企業」60.0%、  
D・I値△40.0と前年同期(△23.0)に比べ17.0ポイントの  
大幅な悪化となりました。

##### 採算

前年比で「好転企業」16.7%「悪化企業」58.3%、  
D・I値△41.7と前年同期(△23.1)から18.6ポイントの  
大幅な悪化傾向を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△32.0(前年同期D・I値△27.0)、売上高D・  
I値△32.0(同△19.2)、資金繰りD・I値△16.0(同△2  
3.1)と前年同期と比べわずかに業況、売上は悪化、資金繰りは改善  
傾向の来期見通しです。



#### 5) サービス業

##### 売上高

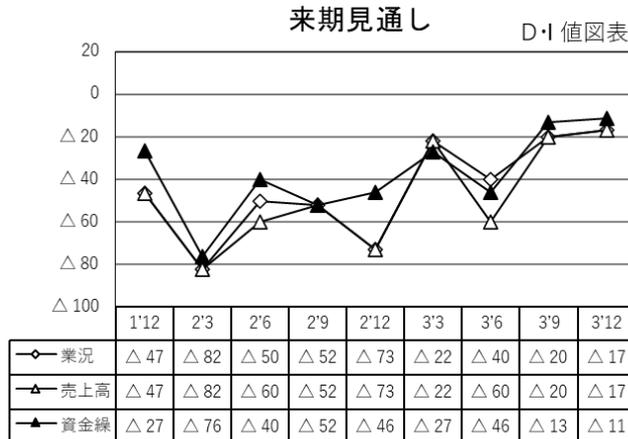
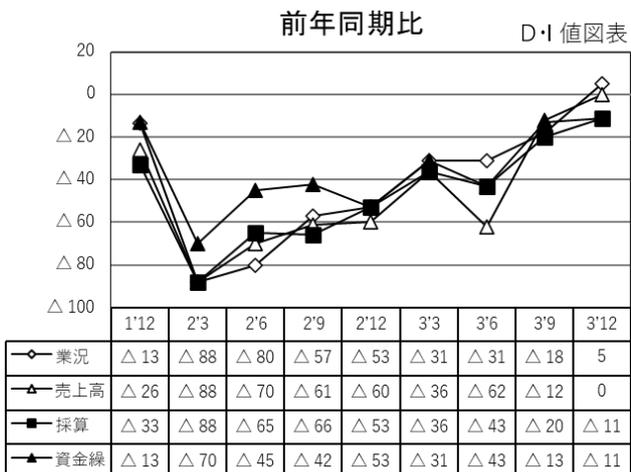
前年比で「増加企業」41.2%、「減少企業」41.2%、  
D・I値0.0と、前年同期(△60.9)に比べ60.9ポイントの大  
幅な改善を示しました。

##### 採算

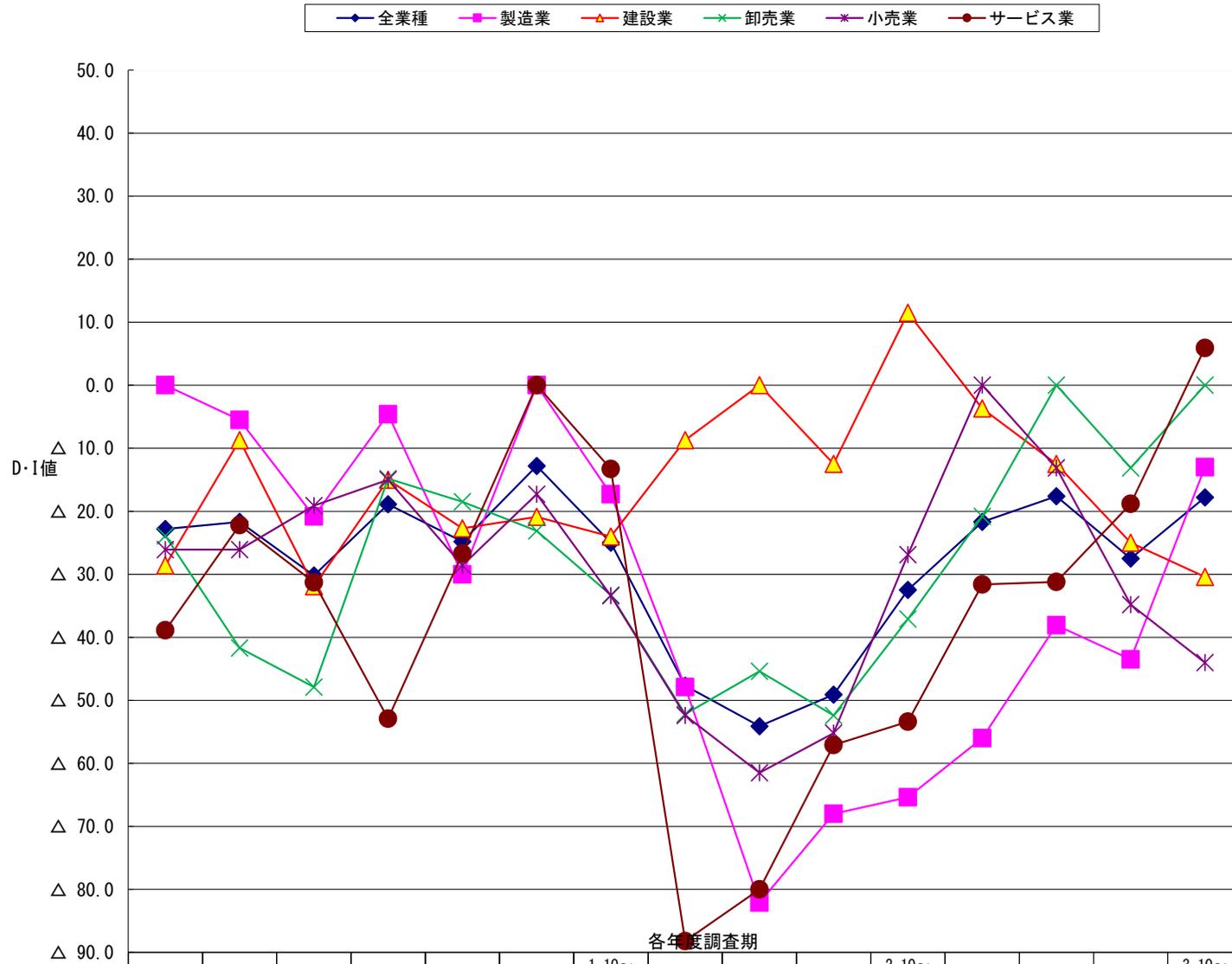
前年比で「好転企業」35.3%、「悪化企業」47.1%、  
D・I値△11.8と前年同期(△53.4)に比べ、41.6ポイント  
の大幅な改善を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△17.6(前年同期D・I値△73.3)、売上高D・  
I値△17.6(同△73.3)、資金繰りD・I値△11.8(同△4  
6.7)と前年同期に比べ、大幅な改善見通しを示しました。



## 各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	30. 4~6	30. 7~9	30. 10~12	31. 1~3	31. 4~1. 6	1. 7~1. 9	1. 10~1. 12	2. 1~2. 3	2. 4~2. 6	2. 7~2. 9	2. 10~2. 12	3. 1~3. 3	3. 4~3. 6	3. 7~3. 9	3. 10~3. 12
	平成30年度 I	平成30年度 II	平成30年度 III	平成30年度 IV	令和元年度 I	令和元年度 II	令和元年度 III	令和元年度 IV	令和2年度 I	令和2年度 II	令和2年度 III	令和2年度 IV	令和3年度 I	令和3年度 II	令和3年度 III
◆ 全業種	△ 22.8	△ 21.7	△ 30.2	△ 18.9	△ 24.8	△ 12.8	△ 25.0	△ 47.7	△ 54.1	△ 49.1	△ 32.5	△ 21.7	△ 17.6	△ 27.5	△ 17.8
■ 製造業	0.0	△ 5.5	△ 20.8	△ 4.6	△ 30.0	0.0	△ 17.3	△ 47.9	△ 82.1	△ 68.0	△ 65.4	△ 56.0	△ 38.1	△ 43.5	△ 13.0
▲ 建設業	△ 28.6	△ 8.7	△ 31.9	△ 15.0	△ 22.7	△ 20.9	△ 24.0	△ 8.7	0.0	△ 12.5	11.5	△ 3.7	△ 12.5	△ 25.0	△ 30.4
× 卸売業	△ 23.9	△ 41.7	△ 47.9	△ 14.8	△ 18.5	△ 23.1	△ 33.3	△ 52.2	△ 45.4	△ 52.4	△ 37.1	△ 20.8	0.0	△ 13.1	0.0
✱ 小売業	△ 26.1	△ 26.1	△ 19.1	△ 15.0	△ 28.6	△ 17.3	△ 33.4	△ 52.4	△ 61.5	△ 55.2	△ 26.9	0.0	△ 13.1	△ 34.8	△ 44.0
● サービス業	△ 38.9	△ 22.2	△ 31.3	△ 52.9	△ 26.7	0.0	△ 13.3	△ 88.2	△ 80.0	△ 57.1	△ 53.4	△ 31.6	△ 31.2	△ 18.8	5.9

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合 資金調達困難
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	人 件 費 増	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種でみると、前回調査で3位だった「諸経費増」がトップとなり、前回1位だった「人材不足」が2位に、前回2位だった「得意先減少」が3位となり順位が入れ代わりしました。その他の順位に変動はありませんでした。

また、業種別でみると、製造業、サービス業で「諸経費増」がトップとなっており、建設業、卸売業で「人材不足」がトップでした。小売業では「得意先減少」がトップでした。

世界的な新型コロナウイルス感染症の影響による生産や流通の遅れ、原油価格や原材料の高騰が深刻な状況となっています。

### ※その他及び具体的な業界の問題点と新型コロナウイルスによる影響についての記載事項

- (製造) ○原材料価格の高騰により、価格転嫁が出来なければ利益減少は否めない。  
 ○中国への輸出エスカレートによる材料のスクラップの不足と高騰。  
 ○記念事業・スポーツ大会などの中止による売上減  
 ○道外に顧客がいるため、首都圏などで感染拡大すればそれに伴い仕事の依頼が減る  
 ○資材の高騰、遅れ  
 ○法改正により、残業時間が制限され、外注増の利益減。また、鋼材や燃料費高騰による負担が大きい。
- (建設) ○高齢化、仕事を受けたくとも技術者の不足により先詰まりである。  
 ○人材不足。建築資材（電材）の供給遅れが深刻。  
 ○新型コロナウイルス感染拡大による職員及び従業員が、感染並びに濃厚接触者に認定された場合に事業（工事）への影響が懸念される。  
 ○再び感染拡大が始まっているので、業務に対する影響が心配。  
 ○コストアップと時間外労働規制への対応  
 ○資材の高騰により採算が合わない。

- (卸売) ○一部原材料の輸入停止による品不足。仕入困難、円安傾向による価格の上昇
- 原料不足による商品の欠品や価格高騰。
  - 商品の生産遅れ
  - ベトナムロックダウン、中国の電力不足等による工場の稼働率低下、コンテナ不足などで生産力低下、納期遅延、価格高騰につながっている。
  - 世界的な半導体不足による製品調達困難
  - 飲食店の客足が少ないと仕入も減になり、売上に影響がでる。
  - 業界内では、人手不足に加え、原料価格が上がってきており、原価逼迫につながる。
- また、新型コロナウイルスの影響で海外との物流も止まっており、厳しい状況が続く。

- (小売) ○製造遅延による仕入れの遅延、製品不足
- 新型コロナウイルス感染拡大による客足の鈍化
  - 外出機会が増えず、買い求めいただく機会がなく辛いところ。
  - 新型コロナウイルス影響により飲食店・ホテル等会合の減少
  - 人手不足が深刻、イベント祝賀会、婚礼などが開催されない
  - 新型コロナウイルス感染拡大による購買意欲の減少
  - 事業承継の準備
  - 酒小売業界は先が見えない状況
  - 人通りがない
  - いい兆しもなく、命をつなぐのもやっと。街の賑わいが待ち望まれる。

(サービス)

- 仕入れ価格の高騰（特に食品）。
- 新型コロナウイルスの状況に応じるのは個人では限界。関係機関に期待。
- コロナにより来客数減少に伴い売上減少
- 直接的なコロナの影響はないが、お客様の来店周期が伸びた。
- 新型コロナウイルスの影響→リモート環境整備やカメラ機器等の注文が増えた。
- 長いコロナ禍により、1年間の安定した、人の流れがない為 スムーズな営業ができない。
- 人が集まらなければ注文はない
- 来店由来のわからない新規のお客様を獲得できない。
- 店内の混雑を避けるためお客様の入店人数を減少させなければならない。
- 基礎になる来店客数が必然的に減少するため売上が上がらない。
- オミクロン株の感染拡大がいつまで続くのかによって業績が大きく変動する

## 業況

- 製造業 ⇒ 好転（製麺、ビール製造、木製家具）  
悪化（印刷、建設用金属製品、菓子、石材加工、帆布製品）
- 建設業 ⇒ 好転（土木関連測量、板金）  
悪化（管、塗装、舗装、とび土工、給排水、衛生、冷暖房、造園）
- 卸売業 ⇒ 好転（製菓原材料、一般製材、牛・豚等内臓肉販売、酒類、食品）  
悪化（事務機器、鉄鋼、医療機器、作業服・事務服、）
- 小売業 ⇒ 好転（靴、生鮮食品、ゴルフ用品）  
悪化（衣料品、食料品、眼鏡、家電製品、時計、青果、生花、火薬・銃砲、米穀、画材）
- サービス業 ⇒ 好転（レンタカー、IT、弁当仕出）  
悪化（クリーニング、建物清掃）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）